

入賞作品集

「新しい東北」作文コンテスト

みんなの思い描く
「新しい東北」



復興庁

Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

「新しい東北」-作文コンテスト-

子どもの目から見た復興の姿を国民に示すとともに、
子どもたちの思いを復興に活かすために。

震災5年目の機会で

全国的に東北を思い返し、考えてもらうことにより
自分の事としてとらえるきっかけを作り、
風化防止につなげていくために。

「私たちが考える『新しい東北』の姿」、

「私たちにできる復興」、

「私たちの復興のあゆみとふるさとへの思い」を
テーマにした、みんなの思い描く「新しい東北」を
作文として募集いたしました。

応募された作品から優れたものを
まとめて文集にしてみました。

「新しい東北」-作文コンテスト-

応募資格 全国の18歳以下の児童及び生徒(小・中・高等学校、専修学校、高等専門学校等まで)

※応募部門については、平成28年3月末時点で在籍している学年

(小・中・高等学校、専修学校、高等専門学校等)で応募可能。

例：平成28年3月末時点で小学6年生は小学生部門、中学3年生は中学生部門、

高校3年生は高校生部門。

※日本全国および在外の日本人学校・補習授業校等から広く募集。

応募方法

および

応募期間

インターネット・郵送・FAX。

平成28年3月1日(火)～平成28年4月20日(水)

入賞者の学年は、いずれも応募時点のものです。

応募総数 2,030通

小学生の部 318通 | 中学生の部 724通 | 高校生の部 988通 |

審査委員

光丘 真理(ミツオカ マリ)

児童文学作家、日本児童文芸家協会常務理事

児童文学作家。日本児童文芸家協会常務理事、日本文芸家協会会員、東京デザイナー学院非常勤講師。『シャイン♪キッズ』(岩崎書店)と『コスモス』シリーズ(ポプラ社・ピュアフル文庫)で児童文芸創作コンクール長編部門の優秀賞をそれぞれ受賞。作品に『ようこそ、ペンション・アニモーへ』(汐文社)、『給食室のはるちゃん先生』(佼成出版社)、『あいたい』(文研出版)、『いとをかし!百人一首』シリーズ(集英社・みらい文庫)など多数。2011年3月11日、故郷・宮城県で被災したことがきっかけとなり、子どもたちを元気にする作品創作に使命を感じている。南三陸町取材して、絵本『タンポポ あの日をわすれないで』(文研出版)を出版、各地の推薦図書となる。

寺村 隆男(テラムラ タカオ)

みずほ総合研究所株式会社 上層執行役員 社会・公共アドバイザー部長

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局(みずほ総合研究所、上層執行役員)1985年から金融機関に30年勤務。主に、中東欧を含む欧州、中東、北米、南米における海外企業、海外プロジェクトの再生関連案件に携わる。2015年よりみずほ総合研究所社会公共アドバイザー部にて勤務、復興分野、地方創生分野、PPP分野、海外インフラ分野の受託調査業務を担当。

高橋 由佳(タカハシ ユカ)

認定特定非営利活動法人 Switch 理事長

NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター理事、社会福祉法人あおぞら評議委員、宮城県教育委員会スクールソーシャルワーカー、宮城労働局就労支援アドバイザー、精神保健福祉士、産業カウンセラー、職場適応援助者(ジョブコーチ)、日本ファンドレイジング協会、准認定ファンドレイザー、LEGO®SERIOUS PLAY®認定ファシリテーター、宮城県教育振興審議会委員。

審査委員長 一木 広治(イチキ コウジ)

株式会社ヘッドライン代表取締役社長

二十一世紀倶楽部理事事務局長、夢の課外授業総合プロデューサー、ライオンズ日本財団理事、2020オリンピック・パラリンピック招致推進委員会、事業・広報アドバイザー、早稲田大学理工学部講師など。各界の著名人が小学校を訪問し子どもたちに夢を与える『夢の課外授業』の総合プロデューサーを務める。2011年より東北被災地の中学校にEXILEと協力し、Rising Sunのダンスカリキュラムを実施。『東日本大震災復興支援・交流事業 中学生 Rising Sun Project 夢の課外授業SPECIAL』を行っている。

中井 裕(ナカイ ユタカ)

東北大学農学部・大学院農学研究科 教授

総長特別補佐(震災復興推進担当)、農学研究科東北復興農学センター副センター長。東日本大震災による津波被災水田に塩害に強いアブラナ科作物を栽培し、被災地の復興を目指す「東北大学 菜の花プロジェクト」リーダー。

箭内 道彦(ヤナイ ミチヒコ)

クリエイティブディレクター 東京藝術大学美術学部デザイン科准教授

福島県出身。数々の話題の広告を手掛けながら、NHK「トップランナー」JMC、猪苗代湖としての紅白歌合戦出場など、活躍は多岐に渡る。故郷への様々な活動は震災前から続き、現在は福島県のクリエイティブディレクターも務めている。

小方 桂子(オガタ ケイコ)

株式会社学研プラス 児童・キャラクター編集室室長

平成27年度の内閣府政府広報室・復興庁主催の「わたしたちのふるさと、10年先の物語」作文募集の審査委員、学研が主催する「才能開発コンクール」(小学生対象・作文部門)の審査進行、上越市が主催する「小川未明文学賞」の審査委員、など審査委員としての実績も豊富にある。

「新しい東北」作文コンテスト

審査委員長 挨拶

つぎの日本を創る、大きなエネルギーを感じました。

「日本の未来も捨てたもんじゃない！」全国の小中学校はもちろん、

海外の日本人学校からも寄せられた作文を読んで、そのように実感しました。

震災当時、まだ幼かった被災地の子どもたちが、

しっかりとしたまなざしでビジョンを描きはじめています。

被災地から遠く離れた地域の子ともたちが、被災地の思いを理解しようとし、

課題を共有し、積極的に関わろうとしています。

大変大きな災害を経験した私たちはまた、「仲間を思いやる気持ち」や

「手を取り合って前へ進む強い意志」という、

かけがえないものを手に入れたのではないのでしょうか。

作文の行間から感じられる熱い思いに、きらめく感性に、伸びやかな可能性に、

自由な視点に、審査している私たちまで、こころが踊りました。胸を打たれました。

東北を、震災前の状態に戻すのではなく、新しい東北を創り上げていくこと。

それが「復興」であると改めて感じました。

そして、これらの作文の中から優秀作品を選ぶことの難しさというたり、

審査員一同、とても頭を悩ませました。

各部門ごとに3作品ずつ優秀作品といたしました。が、

本音は応募者全員を表彰したい気持ちです。

子どもたちが創っていく、東北と日本の未来に、大きく期待したいと思います。

「新しい東北」作文コンテスト 審査委員長 一木広治

「新しい東北」-作文コンテスト- 作品集刊行にあたって

多くの被害をもたらした東日本大震災から5年が経過しました。

この間、被災された住民の方々自身の努力や、国内外からの支援により、復興は着実に進捗しています。

復興が新しいステージを迎える中、

あの震災で何を思い、そして、これからの東北をどのように形作ったら良いか、

若い児童・生徒の皆さんの声を聞きたいと思い、作文を募集しました。

日本全国、更には海外の学校に通う児童・生徒さんから2,000通を超える作品が寄せられました。

一つ一つの作品には前向きで、大きな夢が語られています。

子どもや若者たちが明るい未来を抱ける東北。

日本の見本になるような東北。そんな「新しい東北」を築くために。

我々も思いを新たにしました。

復興庁



「新しい東北」作文コンテスト
入賞作品集